



平成 29 年 2 月 13 日

各 位

会 社 名 神鋼鋼線工業株式会社  
代表者名 取締役社長 藤 井 晃 二  
(コード番号 5660 東証第 2 部)  
問合せ先 取締役総務本部長兼同総務部長兼  
企画部長  
吉 田 裕 彦  
(TEL 06-6411-1051)

(訂正)「平成 26 年 3 月期 第 1 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」  
の一部訂正について

当社は、平成 29 年 2 月 8 日付「過年度の連結財務諸表等に関する誤謬の判明及び平成 29 年 3 月期第 3 四半期決算発表の延期に関するお知らせ」にてお知らせしましたとおり、過年度決算短信の訂正作業を進めてまいりました。

このたび、平成 25 年 8 月 8 日付「平成 26 年 3 月期 第 1 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の訂正作業が完了しましたので、訂正内容についてお知らせいたします。

なお、訂正箇所が多数に及ぶため、訂正後及び訂正前の全文をそれぞれ添付し、訂正箇所には\_\_を付して表示しております。

以 上

(訂正後)



# 平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月8日

上場会社名 神鋼鋼線工業株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 5660 URL http://www.shinko-wire.co.jp  
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 小南 孝教  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役総務本部長兼総務部長 (氏名) 藤森 直樹 (TEL) 06(6411)1051  
 四半期報告書提出予定日 平成25年8月9日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	6,549	5.1	116	—	86	—	41	—
25年3月期第1四半期	6,228	△3.3	△8	—	△17	—	△12	—

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 73百万円(—%) 25年3月期第1四半期 △2百万円(△102.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	0.79	—
25年3月期第1四半期	△0.23	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第1四半期	44,214	18,968	35.4
25年3月期	44,950	19,068	35.1

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 15,662百万円 25年3月期 15,756百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1 四半期末	第2 四半期末	第3 四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	2.00	—	3.00	5.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	2.00	—	3.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	13,930	0.2	290	△30.1	270	△25.9	120	△42.6	2.30
通 期	30,000	8.2	1,310	20.1	1,150	16.2	560	4.3	10.75

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規 1社（社名）株式会社テザック神鋼ワイヤロープ
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
  - ② ①以外の会計方針の変更：無
  - ③ 会計上の見積りの変更：無
  - ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期1Q	58,698,864株	25年3月期	58,698,864株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	6,619,394株	25年3月期	6,618,795株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期1Q	52,079,714株	25年3月期1Q	52,090,963株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の後の景気低迷から緩やかな回復基調となるなか、大胆な金融緩和・財政政策等への期待感を背景として、円高是正の進展や株価の上昇が進んだことにより先行きの景況感には明るさがみられるものの、中国経済における成長鈍化による減速感、欧州債務問題の長期化など、依然不透明な状況で推移しました。

当社グループを取り巻く事業環境は、民間投資関連需要では自動車など一部の分野で持ち直しの動きが見えつつありますが、公共投資関連需要では補正予算などの効果により回復傾向にあるものの出足は鈍く厳しい状況で推移しました。

このような状況のなか、当社グループでは、高付加価値製品の販売拡大による収益力の向上を図ってまいりました。また、原材料価格の高騰やエネルギーコストの上昇等に対しては販売価格の是正に努めるとともに収益改善活動や新生産プロジェクトを引き続き推進し、コスト競争力の強化を図ってまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は6,549百万円と前年同期に比べ5.1%の増収となり、営業利益は116百万円（前年同期は8百万円の損失）、経常利益は86百万円（前年同期は17百万円の損失）となりました。また法人税等および少数株主利益を差し引いた後の四半期純利益は41百万円（前年同期は12百万円の損失）となりました。

当第1四半期連結累計期間のセグメント毎の業績は次のとおりです。

#### <特殊鋼線関連事業>

（P C関連製品）公共事業関連では、一般的に工事着工の遅れなどにより、ほぼ前年同期並みとなりました。民間投資関連では、マンション向け需要、倉庫向け需要が堅調な状況だったことに加え新規拡販の影響により、全体としては販売数量・売上金額とも前年同期に比べ増加しました。

（ばね・特殊線関連製品）主要な需要分野である自動車産業向けの弁ばね用鋼線（オイルテンパー線）は、日系メーカーの中国生産の回復傾向等の影響を受け、販売数量・売上金額とも前年同期に比べ大幅に増加しました。一方、ばね用ニッケルめっき鋼線は、欧州経済の停滞や中国の経済成長が鈍化する中、販売数量は前年同期並みを確保しましたが、売上金額は前年同期に比べ減少しました。また、ステンレス鋼線は、自動車産業向けの国内需要が好調に推移しており、販売数量は前年同期に比べ増加しました。

その結果、特殊鋼線関連事業全体の売上高は3,397百万円と前年同期に比べ5.5%増加となり、営業利益は59百万円と前年同期に比べ15.7%増加となりました。

#### <鋼索関連事業>

国内向けは公共事業の増加による先行きの明るさはあるものの、足元の実需には増加傾向は現れず、販売数量・売上金額はともに前年同期に比べ微減しました。また、輸出につきましては、中国での大型物件等の需要の低迷が続いているものの、エレベータ用の新規需要を獲得できたため、前年同期に比べて販売数量・売上金額とも増加しました。

その結果、鋼索関連事業全体の売上高は2,889百万円と前年同期に比べ微減となり、営業利益は61百万円と前年同期に比べ221.1%増加となりました。

#### <エンジニアリング関連事業>

吊構造用ケーブルにつきましては、橋梁向け、建築向けともに売上金額は前年同期に比べ増加しました。落橋防止ケーブルは前年同期に比べ微増となり、道路騒音防止関連製品は前年同期に比べ増加しました。

その結果、エンジニアリング関連事業全体の売上高は247百万円と前年同期に比べ146.1%増加となり、営業損益は17百万円の損失（前年同期は90百万円の損失）となりました。

#### <その他>

不動産関連事業の売上高は15百万円と前年同期に比べ2.0%増加となり、営業利益は11百万円と前年同期に比べ7.0%増加となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の財政状態は、前連結会計年度末との比較において、次のとおりとなりました。  
総資産は、736百万円減少の44,214百万円となりました。これは主として現金及び預金が減少したことによるものです。

負債は、635百万円減少の25,245百万円となりました。これは主として長期借入金が増加したことによるものです。

純資産は、100百万円減少の18,968百万円となりました。これは主として利益剰余金の減少によるものです。また、自己資本比率は35.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期の第2四半期連結累計期間および通期の業績予想につきましては、平成25年5月9日に公表いたしました業績予想から変更しておりません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表

### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,574	7,335
受取手形及び売掛金	9,845	9,895
商品及び製品	3,851	3,927
仕掛品	2,256	2,382
原材料及び貯蔵品	1,466	1,773
繰延税金資産	316	268
その他	565	625
貸倒引当金	△46	△44
流動資産合計	26,832	26,164
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,241	4,203
機械装置及び運搬具（純額）	4,445	4,387
工具、器具及び備品（純額）	154	156
土地	6,041	6,041
リース資産（純額）	54	59
建設仮勘定	50	34
有形固定資産合計	14,987	14,882
無形固定資産	245	237
投資その他の資産		
投資有価証券	1,166	1,178
長期貸付金	0	0
繰延税金資産	916	944
その他	1,004	1,001
貸倒引当金	△201	△195
投資その他の資産合計	2,885	2,929
固定資産合計	18,118	18,049
資産合計	44,950	44,214

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,528	2,778
短期借入金	5,789	5,876
リース債務	22	23
未払費用	1,180	1,142
未払法人税等	267	53
賞与引当金	517	222
その他	620	486
流動負債合計	<u>10,926</u>	<u>10,582</u>
固定負債		
長期借入金	11,595	11,243
リース債務	38	42
退職給付引当金	2,296	2,376
役員退職慰労引当金	58	49
環境対策引当金	8	8
繰延税金負債	489	490
負ののれん	30	15
その他	437	438
固定負債合計	<u>14,955</u>	<u>14,663</u>
負債合計	<u>25,881</u>	<u>25,245</u>
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,062	8,062
資本剰余金	6,354	6,354
利益剰余金	2,616	2,473
自己株式	△1,353	△1,353
株主資本合計	<u>15,680</u>	<u>15,537</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	75	59
為替換算調整勘定	0	65
その他の包括利益累計額合計	75	125
少数株主持分	3,312	3,305
純資産合計	<u>19,068</u>	<u>18,968</u>
負債純資産合計	<u>44,950</u>	<u>44,214</u>



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
売上高	6,228	6,549
売上原価	5,121	5,283
売上総利益	1,106	1,266
販売費及び一般管理費	1,114	1,150
営業利益又は営業損失(△)	△8	116
営業外収益		
受取利息	12	10
受取配当金	9	10
負ののれん償却額	15	15
固定資産賃貸料	12	10
貸倒引当金戻入額	19	6
その他	5	2
営業外収益合計	74	55
営業外費用		
支払利息	43	46
持分法による投資損失	10	10
その他	29	28
営業外費用合計	83	85
経常利益又は経常損失(△)	△17	86
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△17	86
法人税、住民税及び事業税	3	8
法人税等調整額	△27	21
法人税等合計	△23	29
少数株主損益調整前四半期純利益	5	56
少数株主利益	17	15
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△12	41

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	<u>5</u>	<u>56</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△8	△14
為替換算調整勘定	0	1
持分法適用会社に対する持分相当額	<u>二</u>	<u>29</u>
その他の包括利益合計	<u>△7</u>	<u>16</u>
四半期包括利益	<u>△2</u>	<u>73</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>△18</u>	<u>56</u>
少数株主に係る四半期包括利益	15	17

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

1 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	特殊鋼線 関連事業	鋼索関連 事業	エンジニア リング 関連事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	3,221	2,891	100	6,213	15	6,228	—	6,228
セグメント間の内部売上 高又は振替高	334	34	0	369	—	369	△369	—
計	3,556	2,925	101	6,583	15	6,598	△369	6,228
セグメント損益	51	19	△90	△19	11	△8	—	△8

(注1) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産関連事業であります。

(注2) セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

2 当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	特殊鋼線 関連事業	鋼索関連 事業	エンジニア リング 関連事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	3,397	2,889	247	6,533	15	6,549	—	6,549
セグメント間の内部売上 高又は振替高	185	45	0	230	—	230	△230	—
計	3,582	2,934	247	6,764	15	6,780	△230	6,549
セグメント損益	59	61	△17	104	11	116	—	116

(注1) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産関連事業であります。

(注2) セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

(訂正前)



# 平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月8日

上場会社名 神鋼鋼線工業株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 5660 URL http://www.shinko-wire.co.jp  
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 小南 孝教  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役総務本部長兼総務部長 (氏名) 藤森 直樹 (TEL) 06(6411)1051  
 四半期報告書提出予定日 平成25年8月9日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日~平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	6,549	5.0	104	—	73	—	36	—
25年3月期第1四半期	6,237	△3.1	△7	—	△16	—	△8	—

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 38百万円(—%) 25年3月期第1四半期 2百万円(△97.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	0.69	—
25年3月期第1四半期	△0.15	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第1四半期	44,405	19,147	35.7
25年3月期	45,162	19,289	35.4

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 15,852百万円 25年3月期 15,987百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1 四半期末	第2 四半期末	第3 四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	2.00	—	3.00	5.00
26年3月期	—				
26年3月期(予想)		2.00		3.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日~平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	13,930	0.2	290	△30.1	270	△25.9	120	△42.6	2.30
通 期	30,000	8.2	1,310	20.1	1,150	16.2	560	4.3	10.75

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規 1社（社名）株式会社テザック神鋼ワイヤロープ
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
  - ② ①以外の会計方針の変更：無
  - ③ 会計上の見積りの変更：無
  - ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期1Q	58,698,864株	25年3月期	58,698,864株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	6,619,394株	25年3月期	6,618,795株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期1Q	52,079,714株	25年3月期1Q	52,090,963株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の後の景気低迷から緩やかな回復基調となるなか、大胆な金融緩和・財政政策等への期待感を背景として、円高是正の進展や株価の上昇が進んだことにより先行きの景況感には明るさがみられるものの、中国経済における成長鈍化による減速感、欧州債務問題の長期化など、依然不透明な状況で推移しました。

当社グループを取り巻く事業環境は、民間投資関連需要では自動車など一部の分野で持ち直しの動きが見えつつありますが、公共投資関連需要では補正予算などの効果により回復傾向にあるものの出足は鈍く厳しい状況で推移しました。

このような状況のなか、当社グループでは、高付加価値製品の販売拡大による収益力の向上を図ってまいりました。また、原材料価格の高騰やエネルギーコストの上昇等に対しては販売価格の是正に努めるとともに収益改善活動や新生産プロジェクトを引き続き推進し、コスト競争力の強化を図ってまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は6,549百万円と前年同期に比べ5.0%の増収となり、営業利益は104百万円（前年同期は7百万円の損失）、経常利益は73百万円（前年同期は16百万円の損失）となりました。また法人税等および少数株主利益を差し引いた後の四半期純利益は36百万円（前年同期は8百万円の損失）となりました。

当第1四半期連結累計期間のセグメント毎の業績は次のとおりです。

#### <特殊鋼線関連事業>

(P C関連製品) 公共事業関連では、一般的に工事着工の遅れなどにより、ほぼ前年同期並みとなりました。民間投資関連では、マンション向け需要、倉庫向け需要が堅調な状況だったことに加え新規拡販の影響により、全体としては販売数量・売上金額とも前年同期に比べ増加しました。

(ばね・特殊線関連製品) 主要な需要分野である自動車産業向けの弁ばね用鋼線（オイルテンパー線）は、日系メーカーの中国生産の回復傾向等の影響を受け、販売数量・売上金額とも前年同期に比べ大幅に増加しました。一方、ばね用ニッケルめっき鋼線は、欧州経済の停滞や中国の経済成長が鈍化する中、販売数量は前年同期並みを確保しましたが、売上金額は前年同期に比べ減少しました。また、ステンレス鋼線は、自動車産業向けの国内需要が好調に推移しており、販売数量は前年同期に比べ増加しました。

その結果、特殊鋼線関連事業全体の売上高は3,397百万円と前年同期に比べ5.2%増加となり、営業利益は54百万円と前年同期に比べ4.0%減少となりました。

#### <鋼索関連事業>

国内向けは公共事業の増加による先行きの明るさはあるものの、足元の実需には増加傾向は現れず、販売数量・売上金額はともに前年同期に比べ微減しました。また、輸出につきましては、中国での大型物件等の需要の低迷が続いているものの、エレベータ用の新規需要を獲得できたため、前年同期に比べて販売数量・売上金額とも増加しました。

その結果、鋼索関連事業全体の売上高は2,889百万円と前年同期に比べ微減となり、営業利益は55百万円と前年同期に比べ227.2%増加となりました。

#### <エンジニアリング関連事業>

吊構造用ケーブルにつきましては、橋梁向け、建築向けともに売上金額は前年同期に比べ増加しました。落橋防止ケーブルは前年同期に比べ微増となり、道路騒音防止関連製品は前年同期に比べ増加しました。

その結果、エンジニアリング関連事業全体の売上高は247百万円と前年同期に比べ146.1%増加となり、営業損益は18百万円の損失（前年同期は92百万円の損失）となりました。

#### <その他>

不動産関連事業の売上高は15百万円と前年同期に比べ2.0%増加となり、営業利益は11百万円と前年同期に比べ7.0%増加となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の財政状態は、前連結会計年度末との比較において、次のとおりとなりました。  
総資産は、757百万円減少の44,405百万円となりました。これは主として現金及び預金が減少したことによるものです。

負債は、614百万円減少の25,257百万円となりました。これは主として長期借入金が増加したことによるものです。

純資産は、142百万円減少の19,147百万円となりました。これは主として利益剰余金の減少によるものです。また、自己資本比率は35.7%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期の第2四半期連結累計期間および通期の業績予想につきましては、平成25年5月9日に公表いたしました業績予想から変更しておりません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。



## 2. 四半期連結財務諸表

### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,574	7,335
受取手形及び売掛金	9,845	9,895
商品及び製品	3,851	3,927
仕掛品	2,256	2,382
原材料及び貯蔵品	<u>1,452</u>	<u>1,759</u>
繰延税金資産	<u>308</u>	268
その他	<u>426</u>	<u>486</u>
貸倒引当金	△46	△44
流動資産合計	<u>26,670</u>	<u>26,011</u>
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,241	4,203
機械装置及び運搬具（純額）	4,445	4,387
工具、器具及び備品（純額）	154	156
土地	6,041	6,041
リース資産（純額）	54	59
建設仮勘定	50	34
有形固定資産合計	<u>14,987</u>	<u>14,882</u>
無形固定資産	245	237
投資その他の資産		
投資有価証券	1,166	<u>1,149</u>
長期貸付金	0	0
繰延税金資産	<u>1,288</u>	<u>1,316</u>
その他	1,004	1,001
貸倒引当金	△201	△195
投資その他の資産合計	<u>3,258</u>	<u>3,273</u>
固定資産合計	<u>18,491</u>	<u>18,393</u>
資産合計	<u>45,162</u>	<u>44,405</u>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,532	2,782
短期借入金	5,789	5,876
リース債務	22	23
未払費用	1,180	1,142
未払法人税等	244	30
賞与引当金	496	222
その他	620	486
流動負債合計	<u>10,886</u>	<u>10,563</u>
固定負債		
長期借入金	11,595	11,243
リース債務	38	42
退職給付引当金	2,296	2,376
役員退職慰労引当金	58	49
環境対策引当金	8	8
繰延税金負債	520	521
負ののれん	30	15
その他	437	438
固定負債合計	<u>14,986</u>	<u>14,694</u>
負債合計	<u>25,872</u>	<u>25,257</u>
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,062	8,062
資本剰余金	6,354	6,354
利益剰余金	2,847	2,727
自己株式	△1,353	△1,353
株主資本合計	<u>15,911</u>	<u>15,791</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	75	59
為替換算調整勘定	0	1
その他の包括利益累計額合計	75	60
少数株主持分	3,301	3,294
純資産合計	<u>19,289</u>	<u>19,147</u>
負債純資産合計	<u>45,162</u>	<u>44,405</u>

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
売上高	6,237	6,549
売上原価	5,121	5,295
売上総利益	1,116	1,254
販売費及び一般管理費	1,123	1,150
営業利益又は営業損失(△)	△7	104
営業外収益		
受取利息	12	10
受取配当金	9	10
負ののれん償却額	15	15
固定資産賃貸料	12	10
貸倒引当金戻入額	19	6
その他	5	2
営業外収益合計	74	55
営業外費用		
支払利息	43	46
その他	40	40
営業外費用合計	83	86
経常利益又は経常損失(△)	△16	73
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失(△)	△16	73
法人税、住民税及び事業税	3	8
法人税等調整額	△30	13
法人税等合計	△26	21
少数株主損益調整前四半期純利益	9	51
少数株主利益	17	15
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△8	36

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	9	51
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△8	△14
為替換算調整勘定	0	1
その他の包括利益合計	△7	△13
四半期包括利益	2	38
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△13	21
少数株主に係る四半期包括利益	15	17

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

1 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	特殊鋼線 関連事業	鋼索関連 事業	エンジニ アリング 関連事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	3,230	2,891	100	6,222	15	6,237	—	6,237
セグメント間の内部売上 高又は振替高	334	34	0	369	—	369	△369	—
計	3,565	2,925	101	6,592	15	6,607	△369	6,237
セグメント損益	56	17	△92	△18	11	△7	—	△7

(注1) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産関連事業であります。

(注2) セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

2 当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	特殊鋼線 関連事業	鋼索関連 事業	エンジニ アリング 関連事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	3,397	2,889	247	6,533	15	6,549	—	6,549
セグメント間の内部売上 高又は振替高	185	45	0	230	—	230	△230	—
計	3,582	2,934	247	6,764	15	6,780	△230	6,549
セグメント損益	54	55	△18	92	11	104	—	104

(注1) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産関連事業であります。

(注2) セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。